

# 第 1 1 回

## 東大和市社会教育委員会議 会議録

令和5年3月14日（火）

令和4年度第11回東大和市社会教育委員会議のまとめ

- 1 日 時： 令和5年3月14日（火）午前10時～11時35分
- 2 場 所： 市役所会議棟 第6会議室
- 3 出席委員： 荒川進、外池武嗣、森脇千春、杉本誠一、才郷正次、池田陽子  
石田玲奈（7人）
- 4 事務局： 山口主任、村田（会計年度任用職員）（2人）
- 5 議 題：（1）研究テーマについて（研修）  
（2）その他
- 6 公開・非公開： 公開
- 7 傍聴者数： 0人

○荒川議長：ただいまより令和4年度第11回東大和市社会教育委員会議を開催いたします。よろしくお祈いします。議題に入る前に、お手元の資料の確認をさせていただきます。事務局から、確認をお願いします。

○山口主任：それでは、資料の確認をさせていただきます。まず1枚目が、本日の会議の「次第」でございます。資料1が「東京都市町村社会教育委員連絡協議会 第2回理事会資料（抜粋）」、資料2が「繰入金の取扱いに関する申し合わせ事項の送付について」、資料3が「令和5年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会定期総会の開催について」です。その他に、研修資料として「研修次第」、「『東大和盛連会』沿革」、「東大和伝統芸能フェスタ2022」、「東大和音頭」、「ヤマクラ Vol. 2」です。また、その他の配布資料として、「社教情報 No. 88」、「社協連会報第92号」、「東大和市こうみんかんだより 第260号」、「東大和市こうみんかんだより 第261号」、「とうきょうの地域教育 No. 148号」、「東やまとの青少年 第46号」、「東やまと教育委員会だより 第93号」をお配りしております。以上が本日の資料です。不足はありませんか。

○荒川議長：資料は揃っておりますので、次第に沿って進めたいと思います。本日も新型コロナウイルス感染症対策のため、会議時間の短縮にご協力をお願いいたします。

### 議題（1）「研究テーマについて（研修）」

○荒川議長：それでは、議題1「研究テーマについて（研修）」を議題といたします。講師をお招きしております。事務局より、講師の紹介をお願いいたします。

○山口主任：本日の研修の講師として、東大和盛連会の皆さんをお招きしております。会長の伊藤良雄さん、副会長の金井康哲さんです。今回の社会教育委員会議の提言のテーマは、「青少年」に関わる内容とすることとなり、地域のお祭りを立ち上げた東大和盛連会の皆さんに話を聞きたいという意見があがりましたので、講師依頼をさせていただいたところ、快くお引き受けいただきました。ありがとうございます。本日は、南街まつりの概要等について、お話ししていただく予定でございます。研修資料をご用意していただいておりますので、委員の皆様、お手元にご用意いただきますようお願いいたします。紹介は以上でございます。

○荒川議長：本日は、どうぞよろしくお祈いいたします。それでは、研修次第に沿って進めます。早速、ご講話をいただきたいと思ひます。なお、質疑応答については、最後に時間を設けておりますので、まとめてお祈いいたします。それでは、よろしくお祈いいたします。

○伊藤会長：改めまして、東大和盛連会の会長を務めております、伊藤と申します。本日はよろしくお祈いします。隣にお祈いするのが副会長の金井です。

○金井副会長：よろしくお祈いします。

○伊藤会長：今までの活動等のご説明をさせていただきます。2017年に盛連会の前身となる、東大和納涼祭り実行委員会を結成いたしました。二小の前の富士見通りに商栄会という商店街があり、こちらが毎年7月の第1週目の土曜日と日曜日に七夕祭りを開催しております。そちらのお祭りは、商栄会がメインですので、富士見通りだけを使って開催しているのですが、私たち東大和納涼祭り実行委員会が二小の校庭をお借りし、盆踊りの開催や模擬店の出展をしたことから、二小のお祭りが始まりました。そういったことを2018年、2019年の2年間、実施させて

いただき、2019年に名称を東大和盛連会に変更いたしました。2020年に南街まつりを開催しようと思っていたのですが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、お祭りを開催できる状況ではなくなっていました。そのため、盛連会で話し合い、2020年は、お祭りを開催できたときに使えるよう、東大和音頭を制作することにいたしました。金井副会長は、二小でサッカーチームのコーチを担っていたり、PTA会長を経験されたこともあります。また、池田委員は、二小の東大和青少年少女合唱団の会員です。盛連会の会員は、二小ととてもご縁があることから、二小の音楽教員でいらっしゃる千田先生に東大和音頭の作詞作曲の依頼をさせていただきました。盛連会では、コロナ禍以前から東大和音頭を作りたいという気持ちがありましたので、足繁く小学校に通わせていただき、千田先生と何度も打ち合わせをさせていただきながら、制作しました。DVD用の動画撮影の日には、踊り手と裏方を合わせて、約400人の方にお集まりいただき、撮影しました。新型コロナウイルス感染症の感染が拡大している時期でしたので、参加者全員の名簿を全て作ったり、校庭の中は関係者以外入れないようにするなど、感染対策を徹底し、撮影しました。撮影会場には、まるでお祭りを開催しているかのような雰囲気を作りましたので、近隣の方が遊びにきてしまうというトラブルもありましたが、盛連会の会員からご理解いただけるようお願いをし、なんとか撮影を終えました。YouTubeで東大和音頭とレッスン動画を無料で視聴できるよう配信しております。お祭りで踊っている映像とレッスン動画を別で撮影しました。学校の授業で使っていただきたいので、授業の1コマに合う尺でレッスン動画を作っております。YouTubeで視聴することができますので、多くの人に見ていただけたらありがたいです。これまで、二小と五小の授業に取り入れていただき、私たち盛連会の会員も講師として何度か授業で踊りを教えさせていただきました。こういった経緯で、2020年に東大和音頭を制作しましたが、2021年も、引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響でお祭りを開催できる状況ではございませんでしたので、東大和音頭の普及活動を中心に活動いたしました。そして、2022年に二小の校庭をお借りし、念願の南街まつりを開催することができました。しかし、南街まつりは私たち盛連会が0から作りあげたわけではありません。24年前までは、8月の第1週目の土曜日と日曜日に今と同じ南街まつりというお祭りが開催されておりました。そちらは、24年前、地域の諸事情でなくなってしまいました。その後も、南街睦さんという神輿の会の方たちは、南街まつりをなくしてはいけないと言って、神輿だけはずっと上げ続けてくださっていました。24年以上前の南街まつりが開催されていた時代を知っている人たちと「南街まつりを復活させたい。」という話になり、盛連会を立ち上げました。2022年のお祭りは、元々、8月の第1週目の土曜日と日曜日の2日間の開催を予定し、準備をしていたのですが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大などを考慮し、翌月に延期し、9月24日の1日のみ開催をさせていただきました。内容としては、市内の伝統芸能団体に参画していただくことで、子どもたちに伝統芸能を体験してもらい、子どもたちの郷土愛を育む機会や伝統芸能団体のお披露目の機会になることに加え、お祭りに参加する親子が伝統芸能団体の会員になることで、伝統芸能の世界が活性化されることを目的としておりますので、「東大和伝統芸能フェスタ」という名前で様々な企画を開催いたしました。お祭り当日は、午後3時頃まで土砂降りの雨でしたので、企画の会場を体育館へ移動させましたが、午後4時頃に雨が上がったので、皆さんで力を合わせて校庭の水をスポンジで吸い取り、盆踊りからは校庭で実施できました。大成功とは言えないと

と思いますが、私たちのやる気が様々な人に伝わった日になったのではないかと考えております。ヤマクラV o 1. 2に掲載されている写真は、お祭り当日の写真です。東大和音頭について補足させていただきます。作詞作曲は千田先生にお願いしているのですが、振り付けについては二小、二中出身の宮崎久美子さんというプロのダンサーの方をお願いをし、歌はNHKのフックブックローという番組で歌のお兄さんを担当していた谷本賢一郎さんをお願いをしました。谷本さんのご夫人が東大和市出身の方で、東大和市にとてご縁を感じていただき、ボランティアとして参加していただきました。以上が、今までの盛連会の活動でございます。金井副会長は生まれも育ちも南街で、盛連会を結成する前、南友会の立ち上げから20年も会長を務めております。金井副会長は私よりも1歳下ですが、「お祭りを開催するときは協力して欲しい。」とずっと話をしておりました。池田委員は、金井副会長との繋がりでご紹介いただきました。私が将来お祭りを開催するとき、一緒に活動して欲しいと思い、声を掛けていた人たちが、盛連会の会員たちです。現在は、18人の会員で運営をさせていただいております。盛連会についての説明は以上です。

○荒川議長：それでは、金井副会長からもお話をお願いします。

○金井副会長：私は、会長からご紹介いただいたとおり、二小、二中の出身で、子どもの頃、南街まつりを楽しみにしていました。しかし、その南街まつりが24年前に無くなってしまい、とても寂しさを感じると共に、自分よりも下の世代にもお祭りを体験させてあげたいという思いがとて強くあり、盛連会を立ち上げました。昨年、多くの子どもたちがお祭りに参加し、笑顔を見られてよかったと考えております。

○伊藤会長：2023年は完全な状態で2日間、開催できるよう計画しております。昨年は神輿を上げられませんでした。今年は神輿を上げることも含め、完全な状態を目指しております。

○荒川議長：それでは、委員の皆さんから質問がありましたら、お願いします。

○森脇委員：「盛連会」という名前の由来をお聞きしたいです。

○伊藤会長：どのような名前がいいか募集をし、「東大和を盛り上げたい連中の会」から「盛連会」と提案があり、採用しました。

○森脇委員：ありがとうございます。

○才郷委員：私も南街育ちで、子どもの頃からお祭りに参加しておりました。引っ越しましたので、今は南街地域と関わりはないのですが、本日、盛連会の皆さんが一生懸命に活動しているというお話を聞け、嬉しく思っています。お忙しい中、来ていただきありがとうございます。今後いろいろな活動をしていって欲しいと思います。私は、ボーイスカウトの活動をしてきたのですが、昔から一緒に活動してきた人が徐々に減っております。皆さんの活動で地域を盛り上げて欲しいと思います。

○荒川議長：二小、二中という地域全体の思いが今、結実しているように感じました。こういったお祭りの立ち上げは、難しいと思います。本日、お話をお聞きし、今に至るまでにたくさんの歴史の積み重ねがあるように思います。お話の中には、いくつかの団体が登場したと思います。各団体の歴史が色濃く残っていて、加えて、盛連会の皆さんが頑張った結果、お祭りを復活できたのではないのでしょうか。そのような各団体の流れを教えてくださいませんか。

○伊藤会長：盛連会を結成する前から、南街地域には南友会という団体がありました。金井副会長と同じ昭和53年生まれの二中卒業生を中心として活動している会です。会員からお金を集め

て餅をつき、正月前に餅を配って食べてもらうといった活動を、約20年間、実施している団体です。今では、そういった活動に賛同した人たちもたくさん参加しています。盛連会としては、頼れる団体の1つとして、一緒に活動していただいています。私は、東大和生まれではなく引越してきました、こちらの地域には、大きなお祭りが少ないと感じておりました。また、大人になってからは、南街まつりがなくなってしまいましたので、お祭りを開催したいとずっと思っておりました。私は、商売を仕事とさせていただいており、商工会や青年会議所などの様々な団体に所属し、「いつか、お祭りを開催したい。」と思いながら、いろいろな団体の活動に参加してきました。40歳のときに青年会議所を卒業し、そちらのタイミングで、ずっとまいてきた種を育て、お祭りにつながる活動を始めました。南街地域の最初の問題は、連合自治会が解散したことにより、各自治会の皆さんから、お祭りを開催することについて認めていただく必要があることでした。とても労力が必要でした。各自治会長のところへ足繁く通い、繰り返し話をしました。ずっと反対されていたのですが、2018年に「じゃあ、1回やってみなよ。」と言ってもらいました。本当に開催できるのか、試されたような感じだと思うのですが、風向きが変わり、直近の4年間でやっと認めていただけて、各自治会長の皆さんもかなり応援してくださるようになりました。今年は、連合自治会を復活させる準備委員会を立ち上げる方向で考えており、そちらの下話も各自治会長とさせていただいております。南街まつりは、南街睦さんが行事として続けてくださっていたことで名前が残っていたり、金井副会長や池田委員のように協力者が必要になったときに力になってくれる人や団体が近くにいたことによって、お祭りとして復活できたのだと思います。しかし、地域をまとめる作業がとても大変で、時間をかけて、南街まつりの開催までたどり着きました。

○荒川議長：連合自治会は分裂してしまっていたんですね。

○伊藤会長：はい。しかし、連合自治会は、お祭りを開催するためだけに作られた団体でしたので、普段は自治会毎に活動していました。各自治会は今も残っていて、活動しています。

○荒川議長：自治会長をしている大月さんは元社会教育委員です。各自治会をまた結び付けることができたことは、すごいことですね。

○伊藤会長：大月さんのところへ最初に行ったときも、他の自治会長と同じく、お祭りの開催は出来ないのではないかとといった返答でした。しかし、繰り返しお話をすることで、ご理解いただきました。地域の方の助言やご意見をいただける場がお祭りだと思うので、南街まつりに来賓席を作り、自治会長の皆さんを呼べるようにしたいと思っています。

○荒川議長：お祭りの開催にたどり着く過程も含め、すごいことだと思います。神輿についても、一般的に神輿を管理しているのは神社で、神社と共に神輿の文化も残り続けるものだと思います。しかし、南街まつりの神輿は神社が管理しているものではないのですよね。今、どちらの地域でも神輿の担ぎ手が減っていて、神輿を上げることに苦労しているとお聞きしました。しかし、南街地域では、今も神輿文化を残しているということで、素晴らしいことだと思います。そういったところに秘訣はありますか。文化を次世代へ繋いでいく参考になると思い、質問いたしました。

○伊藤会長：南街睦という名前ではありますが、南街の会員は1人しかおりません。会長が芋窪の方で、他の会員も芋窪の方が多いです。「南街の神輿は、南街地域の住民がお金を出し合い作ったものだから、上げないわけにはいかない。」という使命感だけで、上げ続けてくれているのだと

思います。盛連会を立ち上げる前ですので、今から7年程前に「そろそろお祭りを実行してくれないと、我々も上げられなくなってしまう。」と言われたことがありました。どちらの伝統芸能の団体も、会員の減少が著しく、活動を維持し続けることがとても大変だと聞いております。使命感だけで続けてくれているのだと、強く感じます。

○荒川議長：南街の神輿の担ぎ手はどちらから来てくださっている方ですか。

○伊藤会長：担ぎ手の方は常にあちらこちらの神輿を担ぎに行っていますので、そちらの繋がりです。

○荒川議長：いろいろな地域の人がお互い助け合っているのですね。それにしても、神輿を持ち上げるのは大変なことだと思います。

○伊藤会長：南街睦の神輿は2個あり、大きい方は東京で3番目に重いのですが、南街は道が狭いので、柄が短いそうです。したがって、少ない人数で担ぐ必要があり、担ぎ手にとってはより重く感じ、とても担ぎ甲斐のある神輿だそうです。

○荒川議長：他に何か質問はありますか。

○才郷委員：神輿は今、どちらにしまっていますか。

○伊藤会長：7つの自治会で使っている南街地区集会所の倉庫に、各自治会のお祭りの道具などをしまっており、そちらの一角に南街睦の神輿もしまっています。

○荒川議長：南街睦さんが管理しているのですか。

○伊藤会長：神輿をしまっている場所の鍵は持っていますが、集会所全体は、大月さんが管理しています。

○森脇委員：盛連会の活動について、南街まつり以外の活動はされていますか。また、うろ覚えで申し訳ありませんが、南友会は子ども食堂も運営していますか。

○金井副会長：子ども食堂については、南親会のことでしょうか。別団体ではありますが、交流はあります。盛連会としては、今年の5月にうまかんべえ～祭りの出店を予定しています。他には、BIGBOXのイベントへ参加し、東大和音頭と一緒に踊る活動をしました。

○石田委員：会の目的が「子どもたちの笑顔を求めて。」というのが、とてもいいと思いました。研修資料の写真を拝見しても、子どもの笑顔があり、そちらに大人たちが関わっていくという構図で、良い取組だと思います。40代の方たちが中心となり活動されていると思いますが、取組を次代につないでいくにあたり、どのように巻き込み、どのように引き継いでいくか、考えがございましたら伺いたいです。

○伊藤会長：盛連会の会員の子ども同士も同世代ですので、次の子ども世代を参画させたいという思いは、会員みんなが持っています。また、市内の小学校や中学校、高校にも声を掛け、参画をお願いしていこうと思っています。私たちの世代の人がしてもらったことを子どもの世代にしてあげて、子どもが大人になったら、次の世代の子どもをお祭りに参加させ、運営を手伝うといった自然のサイクルが出来上がることがベストだと思っています。

○石田委員：私が難しいと感じておりますのが、親になったら自分の子どもに引き継ぐといったサイクルは、例えば、中高生の保護者が地域のために何かしてあげることは、比較的できるかと思いますが、未就学児の保護者が同じようにできるかと言いますと、なかなか難しい現実があると思います。そういった若い世代の保護者の居場所が、地域のどちらかにあればいいといった話

や、高校生や大学生になって1度地元を離れた子どもたちが、地元に戻ってこられる環境があればいいという話がこれまでの社会教育委員会議で上がりました。そういった取組ができれば、学校の立場としても、地域の方と一緒に考えていけることがたくさんあるのではないかと思います。地域発信のものが、学校発信のものもあり、そういった話し合いをできる機会を設けられればよいと私は思っています。南街地域はそういった地域の取組が進んでいると思います。

○荒川議長：原動力は、自分たちが楽しかったことを経験しているから、次の世代にも同じ思いをさせてあげたいのだと思います。

○杉本委員：今は二中卒業生を中心に活動されていると思いますが、二中のこれからの卒業生や保護者、また、二中以外の学校の卒業生などを会員に迎え、構成員を増やしていくなどの考えや、卒業していく子どもたちを順番につなげていくような仕組みは、何か考えていらっしゃいますか。

○伊藤会長：今、そういった仕組みを作りたいと思っていたところで、お知恵がありましたら知りたいところです。しかし、まだ数年間は、お祭りを安全に運営させるために地に足をつけて、活動していきたいと思っています。その間、「お手伝いしてください。」といった発信は、広くインスタグラムなどのSNSを中心に発信させていただきつつ、横のつながりを広げていきたいです。これまでも、ほぼ全部が横のつながりで集まってきた人たちですので、お祭りを開催したい方や盛連会に参加できそうな方を紹介していただいたら、「ぜひ、一緒に活動しましょう。」と迎えていきたいと思っています。

○杉本委員：中学校卒業後の子どもたちは、私のような子どもとの関わりが少ない人には、どのような活動をしているのか分からなくなっています。しかし、他の学校にもおやじの会など様々な団体がありますので、「お祭りに1度遊びに来てみませんか。」と声掛けをし、参加してもらうことで「楽しい。」と感じる経験ができれば、我々も挑戦してみたいといった声が上がってくる可能性もあると思います。そのような意味での声掛けを全中学校でできれば、保護者を巻き込むことで、子どもにも参加してもらえらるかと思います。また、社会教育委員会議で考えております、若者の居場所をどのように作ればいいのかということの1つの道筋になってくるのではないかと思います。盛連会が、市全体の流れを作っているのではないかと思います。

○荒川議長：いろいろな組織が各地区にあるようですが、子ども会のような組織はありますか。

○池田委員：子どもが多いマンションや地区では、子どものイベントを実施しているようですが、広く募集しているようなイベントはないです。

○荒川議長：そういったものがあると、上と下の年代のつながりができますよね。

○池田委員：各自治会では、実施しているようですので、イベントに自治会を巻き込めると、子どもたちは参加してくれると思います。

○荒川議長：マンションの管理組合は取り組みやすいので、取り組んでいるのだと思います。自治会になると、難しくなりますよね。

○伊藤会長：私の住んでいる地域では、子どもが2人だけになってしまいました。子どものためにお祭りを開催しているのですが、徐々に子どものためではなくなってきました。

○荒川議長：餅つきをしている自治会も多くありますね。自治会で実施している餅つきは子ども会と言ってもいいと思います。餅つきは子どものために開催しているのだと思いますが、どうですか。

○伊藤会長：そうですね。南友会の餅つきも、子どもたちにつかせています。

○荒川議長：そういった経験をした子どもは、大人になってから自分の子どもや下の世代まで世話をしようといった気持ちを持つのだと思います。

○外池委員：私は学校に勤めておりましたので、「地域に開かれた学校」や「子どもたちのふるさと意識の向上」は、とても大事な課題だと思います。校長先生は地域の人たちに協力的な人が多い傾向にあるかと思いますが、地域の人々の立場として、盛連会から先生に対して、このようになって欲しいなどの思いがございましたら、教えてください。

○伊藤会長：学校の協力体制について、私の個人的な意見でございますが、学校長によってかなり違うと感じております。また、近年は先生方の勤務時間について、見直されておりますので、先生の参画を呼び掛けるというのは、難しく感じております。

○外池委員：休日のイベントですと、余計声を掛けにくいですね。

○池田委員：多くはありませんが、来てくださる先生もいらっしゃいます。

○荒川議長：地域の人々が遠慮をしまい、教員に参画を呼び掛けるに難いと思わせてしまう環境は、良くないと思います。盛連会の方々も仕事として活動しているわけではなく、地域への奉仕活動として活動しているのだと思います。自分の意志で地域に貢献しようと思える環境が必要だと思います。

○伊藤会長：そうですね。役割をお願いするということは、できないと感じます。

○石田委員：教員かどうかは関係なく、教員も1人の人間として、そのような活動に参加することで、自分の居場所だと感じられたり、「いろいろな文化に触れたいな。」や「楽しいな。」など、もっと関わり合いたいと思えば、自然と足が向くと思います。青少年対策委員会のイベントの日程に、あえて土曜日の公開授業の日を選び、教員の勤務時間の中でイベントを開催することで、教員に対して、参加してくださいと呼び掛けることができました。学校長の立場で言えば、地域の人からの話も、相談の仕方によっては、いかようにも協力できると思います。だからこそ、教員と地域の人と一緒に話し合いをできる機会が必要だと思います。

○荒川議長：そうですね。勤務であれば、上長からの指示で参加してもらえます。しかし、自分の意志で出向きたくなるような環境が必要だと思います。

○外池委員：地域のために活動することは、人との絆を強めることができる大切な活動であることだと、教員自身が自然と考えられる環境が必要だと思います。私はそういったところが課題だと思います。

○荒川議長：教員には、勤務地だけでなく、自分が住んでいる地域もあります。どちらかの地域で貢献できると良いですね。学校や地域の方は、そういったところに理解を示す必要はあると思います。

○池田委員：南街まつりは、神輿といった伝統は残っていましたが、今年ようやく、お祭りを開催することができました。学校の先生や地域の人たちを巻き込んでいける場が、お祭りだと思います。教え子から「企画に参加するから見にきて欲しい。」と言われたら、先生方は「行きたい。」と感じてくださると思います。いろいろな方を巻き込めるよう、時勢に合わせた企画を取り入れるなどの工夫をしながら活動していきたいと思います。また、盛連会は、他の地域からお誘いがあった際は、時間が許す限り、出向いていく人たちです。先ほど、他にどのような活動をしてい

るかとの質問がありましたが、去年は、東大和南公園のお祭りにお誘いいただきました。みなみこうえん祭2022で東大和音頭を使用したいということで、やぐらの代わりにローリングタワーを設置し、谷本賢一郎さんをゲストとして呼びし、参加しました。盛連会から申し出たのではなく、東大和南公園から誘っていただいたので、盛連会の知名度が少しずつ高まっていると実感しました。皆で東大和音頭を踊ることができ、こちらのお祭りで東大和音頭を知ったという人もいまして、こういったところからも普及活動ができると実感しました。また、主催の東大和南公園から「イベントの参考にさせていただきます。」と言っていただきました。こちらのお祭りは、毎年、開催しているそうですが、これまでなかなか集客できなかったそうです。地元の団体がお祭りに参加したことで、来場者が増えたと評価していただきました。そういったことで地域貢献をできればいいと思います。こういったお祭りに来場した人が、次のイベントでは、手伝ってくださったりします。小さなことでも手伝ってくだされば、そういったことを何年も続けていくうちに、小さなお子さんを育てている方も、お子さんが少し大きくなって余裕ができた頃に、主体となって活動してみようと思ってくれると思います。そのように、お祭りが居場所を見つけられるきっかけになればいいと思います。仕事の繋がりではない仲間と集える場が地域にあると、こちらの地域を好きになると思います。

○杉本委員：私の住んでいる地域でも、8月に盆踊りを開催していました。中高生の年頃の子どもたちが浴衣を着て友達と集まり、とても楽しんでいました。お祭りですと、先生をお誘いして来てもらっても、夜8時くらいまでに終わると思いますので、それほど遅くはならないと思います。もし、こういった場に先生が来られるのであれば、卒業していった教え子と再会できる機会にもなると思います。そのように思い出がより深まれば、先生から生徒を誘うようになるかもしれません。先生にも楽しい思いをしてもらえれば、子どもに対する接し方も変わってくるのではないのでしょうか。

○池田委員：お祭りが、同窓会のような場になったらいいですね。

○杉本委員：お祭りの開催場所も、二小ばかりでなく、持ち回りでいろいろな学校で開催できたらいいと思います。そのようにお祭りが大きくなり、会場が学校では狭くなってきましたら、東大和南公園で開催すれば、たくさんの方が来場できます。そのように発展していけたらいいと思いました。先生も保護者も、お祭りの雰囲気を楽しめば、地域の活動への考え方も変わると思います。まずは、お祭りに参加してもらうことで、地域の活動の発展につながるのではないかと思います。

○荒川議長：それでは、研修会はこちらまでとさせていただきます。ありがとうございました。

○伊藤会長：ありがとうございました。今年の南街まつりは、7月の最終週の土曜日と日曜日の開催を予定しております。社会教育委員の皆さんも遊びにいらっしやっただけければ、嬉しいです。本日はありがとうございました。

～伊藤会長、金井副会長退室～

○荒川議長：きちんとお話を聞くと、より背景が見えてきますね。お祭りの立ち上げには、地域資源が必要であり、盛連会のような人たちもいるからこそ、立ち上がるのですね。私の住んでい

る地域は、コロナ禍になってから、盆踊りができなくなってしまいました。自治会が主体となって開催していましたが、高齢化していますので、再開は難しいと思います。テントややぐらをたてるのは、力仕事です。

○杉本委員：お祭りは、電飾などの準備が大変です。高齢化が進んでおりますので、昨年、開催できたお祭りも、いつまで続けられるかという心配が大きいです。どちらのお祭りも、盛連会のような団体が一緒に開催してくれれば、ずっと続けられるのではないかと思います。

○池田委員：電飾などの準備をボランティアで準備していただくと、いつかできなくなってしまうと思い、長く続けるため、盛連会では、正式に依頼することにしました。しかし、そうしますと、予算の確保がとても重要になってしまいますので、自治会や地域の企業に協力していただくことが、長く続けられる秘訣だと思います。そういったノウハウを持った盛連会を私たちの代で終わらせるのではなく、引き継いでいきたいと考えています。

○荒川議長：テントを1つ立てるのも、慣れている人と慣れていない人で、手際が全く違います。しかし、慣れている人に頼り切ってしまうと、次の世代へ引き継ぐことが危うくなります。

○杉本委員：費用の面も大変ですよ。今は、協賛金、いわゆる寄付で成り立っているのですよね。物事を行うには、お金がないとできませんので、そのような財源の確保も同時に考えていかなければなりません。わずか十数人の会員で南街まつりの開催までたどり着いたことは、すごいことだと思いました。

○池田委員：今後も続けていくということが大事だと思っています。

○杉本委員：楽しい思いをした人をたくさん作ることが、1番だと思います。

○荒川議長：とてもいい勉強になりました。こちらからどのように若者の居場所に結び付けていくか、皆さんでそれぞれ考えていただきたいと思います。

## 議題（２）「その他」

それでは続きまして、議題２「その他」について事務局からお願いします。

○山口主任：事務連絡としまして、２点ございます。事務連絡１点目としまして、東京都市町村社会教育委員連絡協議会の第２回理事会の報告についてです。資料１、資料２及び資料３をお手元にご用意ください。令和５年２月１４日火曜日に令和４年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会の第２回理事会が開催されましたので、協議事項となっていた資料を配布させていただきました。資料１のうち、協議１－１、１－２、１－３と記載されているものをご覧ください。こちらは、東京都市町村社会教育委員連絡協議会表彰に関するもので、１－１は令和４年度における被表彰者名簿（案）、１－２は表彰規程、１－３は表彰規定施行細則でございます。これらの名簿に記載されている方は、４月１５日土曜日の定期総会にて表彰が行われる予定です。また、本表彰は、受賞済みの方を推薦されても、再び感謝状を渡さないこととしたいとのことでした。資料１のうち、協議２と記載されているものをご覧ください。こちらは、繰入金の取り扱いに関する申し合わせ事項（案）でございます。予算書において、支出科目「準備金」とし、備考欄に「関東甲信越静社会教育研究大会東京大会」と明記するという案のとおり、理事会にて承認されました。そちらのことに伴い、協議会会長より、承認されました申し合わせ事項を受領しましたので、皆様に資料２として配布しております。続きまして、資料１のうち、協議３と記載されているも

のをご覧ください。こちらは、令和5年度定期総会議案書（案）となります。定期総会については、議案書（案）に記載されているとおり令和5年4月15日土曜日の午後1時からアキシマエンス体育館にて開催されます。続けて、事務連絡2点目でございます。資料3をご覧ください。総会の開催通知と欠席される方の委任状でございます。では、ここで出欠確認をさせていただきたいと思います。今回、会場の人数制限は行わないとのことでございます。当日、公共機関にて会場へお越しいただくことを想定しております。受付が午後0時30分より始まりますので、午後0時20分に昭島駅の改札前に集合していただき、会場へ一緒に徒歩で向かうことを予定しております。出席される方は挙手をお願いします。出席される方は、合計で2人ですね。ありがとうございます。欠席される方につきましては、本日配布しております議案書（案）の内容をご確認いただきまして、質問や意見の有無と、市町村名やご住所、お名前をご記入いただき、4月5日（水）までに事務局へご提出をお願いします。特にお名前につきましては、直筆でお願いいたします。以上でございます。

○荒川議長：その他、何かありますか。

○池田委員：子どもの居場所づくりについて、最近、良いと思った事例があります。東大和市駅の駅前に西武レクリエーション株式会社さんが管理されているBIGBOXがあり、その中のドコモショップの向かいに、長い期間、空きスペースがありました。そこにテーブルが並べられ、フリースペースができました。あそびっぐへ来場した方がご飯を食べるときに使えるようテーブルを置いたそうですが、フリースペースになっておりますので、高校生や中学生がそちらで勉強している姿を見かけます。駅前にそのようなスペースがある方が、多くの人を利用するのではないかと思います。飲み物が提供されているなど、居心地をよくするための工夫をしているわけではないのですが、ドコモショップの営業時間外は本当に静かな場所になりますし、同じ建物内にダイソーがありまして、何か欲しくなったらダイソーに行けばいいので、高校生などがそちらで勉強をしているようです。利用していた子どもに「居心地いいの？」と聞いてみますと、「穴場なんだよ。」と言っていました。駅前は、やはり重要な場所だと思います。

○森脇委員：以前、本屋だった場所ですか。

○池田委員：そうです。本屋がなくなってから長い期間、何もない空間になっていまして、BIGBOXさんがイベントの会場として、たまに使っていたのですが、先日、ななかまどさんが営業をやめ、テーブルが不要になったので、そちらの空きスペースに置いて、フリースペースのようにしたと、BIGBOXの方からお聞きしました。ななかまどがあった場所は、新しくハンバーグレストランをオープンするそうです。今、BIGBOXさんは子どもの居場所づくりなど、そういったことに興味を持ってくださっており、元々ボウリング場やスケートリンクがあるのですが、新しく卓球スペースや体育スペースを作ってくださいまして、そういったものをうまく活用できるよう考えていますと言っていました。そのため、東大和市と連携を図ることができれば、有力な協力者になるのではないかと思います。テナントをフリースペースとして活用していますので、貸出先が決まってしまうと、なくなってしまうかもしれませんが、「中高生の居場所を作っていただけたら嬉しいです。」とお伝えしました。

○才郷委員：私も先日、そちらへ行きました。夕方でしたが、大人もお茶を飲んだりして座っていました。空きスペースだった頃は、寂しい印象でした。

○池田委員：先日、BIGBOXの方とフリースペースができて良くなったという話をしてきました。治安が悪いわけではないですし、近くに100円ショップもあり、便利です。BIGBOXさんとしては、あそびつぐに来場した人は、場内で食事できないので、食事をできるようにスペースを用意したそうです。しかし、午後6時にはあそびつぐは閉まってしまいますが、その後もフリースペースは開放しているので、利用できます。

○才郷委員：テレビで見た内容ですが、アイススケート場を小さな子どもも遊べるようにしたそうですね。

○池田委員：BIGBOXさんが、子育てしやすいまちのための施設にしようと頑張ってくださいています。ボウリング場は中高生も使いますが、他は、小学校低学年ぐらいまでを対象とした施設ばかりですので、中高生が集えるよう、スケボー場ができれば、人が集まるのではないかと伝えてみました。また、今月の25日に、BIGBOXでイベントが開催されます。テニスコートで、縁日のようなものやテニスの体験教室を実施したり、近隣の地域の団体がダンスや吹奏楽を披露します。私が所属している東大和少年少女合唱団も出演します。

○荒川議長：今もそのように子どもの居場所となっている場はいくつもありますが、リストアップして市民に向けて提供することは難しいですね。

○池田委員：そうですね。しかし、中高生は敏感ですので、新しいスポットもすぐに見つけて使っていました。ドコモショップ前のフリースペースは、奥まった場所や囲まれた場所にあるわけではなく、開かれた場所にあり、分かりやすいので、通りがかりに気付いて利用できるのだと思います。

○森脇委員：テーブルがあるところが、いいと思います。シニア世代はいましたか。

○池田委員：いました。おそらくボウリングやテニスをした大人たちが、そこでおしゃべりをしているのだと思います。BIGBOXさんは子育てしやすいまちづくりに協力的に考えてくださっているので、子どもたちがたくさんいて、とても明るい雰囲気になったと思います。

○荒川議長：それでは、そのようなこともヒントの1つとして、また考えていきましょう。それでは、第11回社会教育委員会議事を終了します。次回の開催日は4月18日火曜日午前10時です。ありがとうございました。